

万博道路網、整備費増へ

写真上は大阪日日新聞 14 日 1 面掲載、高速道路「淀川左岸線 2 期」工事現場=13 日午後、大阪市(共同通信社ヘリから)。途中まで紹介する。

2025 年大阪・関西万博に向けて大阪市が整備している高速道路「淀川左岸線 2 期」事業を巡り、工事現場の広い範囲で自然由来の土壌汚染が確認され、地盤改良工法や下水管を撤去する工法の変更、地中障害物の撤去などで、当初見込んでいた整備費用約 1160 億円が最大で約 700 億円増加し、1.6 倍になる可能性があることが 13 日、分かった。

淀川左岸線「2 期」は、JR 新大阪駅や大阪駅から万博会場となる人工島・夢洲を結ぶ高速道路の一部で、全長 10 ㎞のうち北区から此花区までの東半分の約 4.4 ㎞。西半分で供用済みの「1 期」に続き、25 年の事業完了を予定している。シャトルバスの専用道として使用することを目指しており、新大阪駅から夢洲への移動時間は 35 分から 19 分に短縮され、大阪都心北部の交通混雑緩和と市街地環境の改善を図ることができる。

写真下は毎日新聞 14 日朝刊から。松井一郎市長は市役所で記者団に対し、「万博や夢洲開発には必要なインフラで、できるだけコストは抑える。ただ、市の財政状況を見ても、大きな障害にならないと思っている」と述べた。淀川左岸線は万博期間中、シャトルバスの専用道として活用する計画が進んでいる。松井市長は 19 年 11 月、当初 27 年春としていた完成時期を 2 年前倒しし、万博開幕前の開通を目指す方針を表明した。

日本経済新聞 14 日朝刊も次のように伝えている。淀川左岸線は大阪市此花区から大阪府門真市を結ぶ高速道路。市は阪神高速道路と、27 年開通予定の一部区間(海老江—豊崎、4.4 ㎞)を万博開幕に間に合うよう 2 年前倒しして工事を進めている。当初の整備費は総額 1257 億円。このうち市は 1162 億円を負担する予定だった。国は道路整備の法律に基づき、市が負担する整備費の 55%以内で国費を投入するとしているが、支払う額は定まっていない。松井一郎市長は 13 日、記者団に対し「設計段階で見えない部分が出てきた。コストの増加分は国と事業者と協議・相談していく」と述べた。完成時期は「変わらない」との考えを示した。

これらの記事を読んでも、現時点で分からないことが多い。万博アクセスとするため 2 年前倒ししたことが影響したのか、工費が最大で 700 億円増の公表がなぜ住民投票後になったのか。大規模開発特有の地元負担膨張の構図として注目していきたい。



(2020 年 11 月 18 日)